



18 誘導心電図を用いた左室 Summit 起源/大動脈冠尖起源心室期外収縮の鑑別

2016年4月1日より2026年12月31日までに日本医科大学付属病院循環器内科で、左室 Summit 起源/大動脈冠尖起源心室期外収縮に対し心臓カテーテルアブレーション治療を受けられた患者さん

研究協力のお願い

当科では「18 誘導心電図を用いた左室 Summit 起源/大動脈冠尖起源心室期外収縮の鑑別」という研究を倫理委員会の承認並びに院長の許可のもと、倫理指針及び法令を遵守して行います。この研究は、2016年4月1日より2026年12月31日までに日本医科大学付属病院循環器内科にて、左室 Summit 起源/大動脈冠尖起源心室期外収縮に対し心臓カテーテルアブレーション治療を受けられた患者さんの臨床的特徴を調査する研究です。カテーテルアブレーション後に医師より治療した心臓の部位が左室 Summit や大動脈冠尖であったとお伝えされた患者さんが対象となります。研究目的や研究方法は以下の通りです。直接のご同意はいただかず、この掲示によるお知らせをもって実施いたします。皆様方におかれましては研究の主旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。この研究へのご参加を希望されない場合、途中からご参加取りやめを希望される場合、また、研究資料の閲覧・開示、個人情報の取り扱い、その他研究に関するご質問は下記の問い合わせ先へご連絡下さい。

(1) 研究の概要について

研究課題名：18 誘導心電図を用いた左室 Summit 起源/大動脈冠尖起源心室期外収縮の鑑別

研究期間：研究実施許可日～2027年12月31日

研究責任者：日本医科大学付属病院 循環器内科 萩原 かな子

(2) 研究の意義、目的について

心室期外収縮（以下 PVC）は心臓カテーテルアブレーションの治療対象となる不整脈の一つです。PVC は 12 誘導心電図からある程度その起源を予測することができますが、正確な起源を予測することは困難であり、治療に難渋することがあります。PVC の中でも特に左室 Summit 起源/大動脈冠尖起源心室期外収縮はその起源が隣接しており、カテーテルアブレーション術前に両者を鑑別することは難しいのが現状です。両者の治療方法は異なることが多く、カテーテルアブレーション術前にある程度治療部位の予測ができれば、術中のカテーテルの選択や、治療戦略を考える際に有益となります。18 誘導心電図は通常の検査で用いられる 12 誘導心電図に右側誘導と背部誘導を追加したものであり、より多くの方向から情報を得ることができます。18 誘導心電図は 12 誘導心電図と同様に非侵襲的な検査の一つであり、患者さんの負担が増加することなく、より多くの情報を得られることで PVC の起源の予測の一助となることが予想されます。本研究では左室 Summit 起源/大動脈冠尖起源心室期外収縮の 18 誘導心電図の特徴を明らかにすることを目的といたします。

(3) 研究の方法について（研究に用いる試料・情報の種類）

2016年4月1日より2026年12月31日までに日本医科大学付属病院循環器内科にて、左室 Summit 起源/大動脈冠尖起源心室期外収縮に対し心臓カテーテルアブレーション治療を受けられた患者さんの臨床背景、心電図データ、心臓超音波データなどを後ろ向きに（過去に行われた診療上のデータを）解析し、左室 summit 起源/大動脈冠尖起源心室期外収縮の症例を比較し、臨床的特徴の比較検討を行います。

この研究は、患者さんの以下の試料・情報を用いて行われます。

試料：なし

情報：年齢、性別、血圧値、脈拍、血液検査、心電図検査、心臓超音波検査、アブレーション治療内容

(4) 個人情報保護について

研究にあたっては、個人を直接特定できる情報は使用いたしません。また、研究発表時にも個人情報は使用いたしません。その他、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（文部科学省・厚生労働省・経済産業省）」および「同・倫理指針ガイドンス」に則り、個人情報の保護に努めます。

(5) 研究成果の公表について

この研究成果は学会発表、学術雑誌などで公表いたします。

(6) 問い合わせ等の連絡先

日本医科大学付属病院 循環器内科 助教・医員 萩原 かな子

〒113-8603 東京都文京区千駄木 1-1-5

電話番号：03-3822-2131（代表） 内線：24019

メールアドレス：kanako-i@nms.ac.jp